



社大同窓会

vol.
83

同窓会×大学
パートナーシップ推進





10/20(土)・21(日)

市民公開セミナーin小樽

第2日目「秋季セミナー・小樽Tour」



主催：北海道社会福祉系大学等卒業生等交流会（通称「ヨコイト」）



北海道新聞小樽支社



10/21(日)

きよせ市民まつり 2018・社大ボラセン企画 初出店



清瀬の商店や市民の方々と交流できる良い機会です



学生サークル「さんさんさん」の「きよせのいいところあつめ」



「さんさんさん」は、“まちづくり”をテーマに清瀬の街で活動するサークルです



10/27(土)・28(日)

第49回社大祭



私も社大祭を応援しています



モザイクアート(モデルは神野学長)

今年のテーマ「 $L \infty P$ ～広げていこう無限の輪～」



イベントカウントダウン

ハイライトはHAPPY ♥ WEDDING

大学で結婚式します。実行委員がオリジナルでお届けする企画です。



フラワーシャワー・ブーケスセレモニー



ボランティアサークル

遊びでみんなの笑顔を広げる

言の葉って??

児童館の活動に社大生のボランティアとして参加させてもらって、子どもたちと一緒に遊んだり、特別養護老人ホームで高齢者と一緒に遊べるプログラムを企画・実行したりします。気軽に参加できて、サークル員とはもちろん、子どもたちや高齢者とも楽しく仲良くなれるサークルです。

言の葉 活動メモ

- 5月 東久留米子ども祭り
- 7月 児童館の子ども祭り
- 8月 特別養護老人ホームの納涼会
- 10月 学祭
- 12月 児童館のクリスマス会
- 他、児童館 2つとジュニアクラブ、特別養護老人ホームのボランティアが各、月1回ずつあります。



1,2年生の親睦会で、毎年5月にまんぱくというグルメフェスに行った時の写真です。2年生は盛り上げ上手で、1年生は個性的な人たちが多くいます。



東久留米子ども祭りでは言の葉の学生が、子どもたちにフェイスペインティングを行いました。



8月に行われる特別養護老人ホームの納涼祭では、浴衣を着てお祭りのお手伝いをします。



東久留米子どもまつりのメイン看板は毎年言の葉が作成担当をしています。子どもが好きになってくれるようなかわいいデザインを考えて作りました。

●これからの活動

言の葉の活動で最も大きなイベントである東久留米子ども祭りに、来年も参加させていただきます。今年は2日間にわたって、総勢40人以上の言の葉部員が参加してくれました。来年も大成功して終わるように、各学年が協力して準備を進めていきます。(サークル代表 田中直樹)

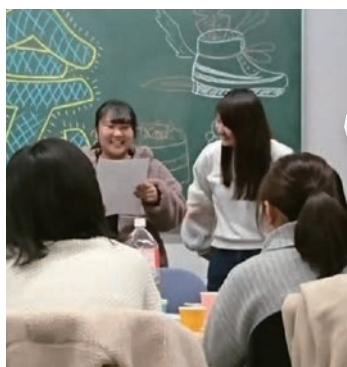
母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

ボランティアセンター学生スタッフ「1 step」 「ボランティアサークル交流会」を開催

2018.12.18



「言の葉」「幻灯会」「社大BBS会」「Cocoa」「プレイケアサークルおもちゃばこ」から10名の学生が参加。事前に実施したアンケートを基に、「代表の悩み」「今後してみたい活動」「他サークルとの協働」をテーマに設定して、「1 step」メンバーも交えて意見交換しました。



◆代表の悩みは…活動の人集め!部員はたくさんいても、実際の活動の際に足りないことも。ボラセンを通じて臨時で協力してくれる学生を募集できるといいなあ、という声もありました。

◆具体的に協働したいサークル名が上がり、新たな活動のヒントも!

◆新入生向けボランティアサークル紹介企画「トークサロン」へのアイディアや定期的な交流会の開催について、予定時間を超えて盛り上がりました。



“ボラサー同士で繋がろう!”

社事大では15のサークルが、様々な分野で活発なボランティア活動を展開しています。ボランティアセンターでは、各サークル代表から活動の様子を聞き取り、必要なサポートや情報の提供を行っていますが、学生スタッフの「サークル同士の横の繋がりを深めたい」との思いから交流会を開催することとなりました。



PHOTO NEWS

12/16(日)

学生児童劇団ピッポ冬公演

ケーキ屋こむぎの3つのお願い



狭山市立広瀬児童館

12/14(金)

ダンス部冬公演



ずんちゃずんちゃ♪



母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

北海道支部

「地域福祉力の形成」をめざす 市民公開セミナー in 小樽・同窓会秋季セミナー

このたびのセミナーは、昨年の3月に結成された北海道社会福祉系大学等卒業生等交流会（通称「ヨコイト」）が、小樽の地域福祉実践団体「しやらく祭」と共に開催しました。10月20日（土）市民公開セミナー。記念講演は野口日福大特任教授。シンポジウムは日福大出身の中田さん、社大出身の儀藤さん、美瑛町の伊藤さんからの報告と提起。約50人が参加。セミナー終了後に「魚真」にて25名参加で懇親会。翌21日（日）は、社大・日福大による「秋季セミナー」として「誰も知らない小樽Tour」と昼食会。（北海道支部アガベより）



岩手・青森・秋田県支部合同の同窓会活動 「3支部」による日本社会事業大学公開セミナー

「神野直彦 福祉と経済を語るセミナー」を、11月18日（日）に盛岡市で開催しました。このセミナーは、同窓会 岩手・青森・秋田の3支部の合同企画によるもので、約120名が参加。神野直彦学長が「悲しみを分かち合う経済・福祉」という演題で講演。セミナー終了後に交流会を。3支部以外からのゲストも加わり充実した交流となり、来年の開催県はどこかなどの話題など新たな同窓会活動の動きにも繋がります。



星拓史

福島県支部

「分かち合い・共生の地域づくり」を テーマに支部講演会

保健福祉関係団体やマスコミの後援を頂き講演会を実施。9月28日（金）喜多市で。市内はもとより、会津地方をはじめ県内から、地域づくりに取り組む専門職や行政、議員、社協職員、民生児童委員や住民の方々等約100名が参加。財政学や地方自治を研究されてきた神野直彦学長のお話から地域づくりを考える上での方向性について多くの学びを得ることができ、大変意義深い講演会となりました。セミナー終了後に県支部総会。その後熱塩温泉山形屋での懇親会ではユーチューブの社大校歌動画に合わせてみんなで懐かしく校歌を歌いました。（実施報告より）



栃木県支部

総会と忘年会開催！

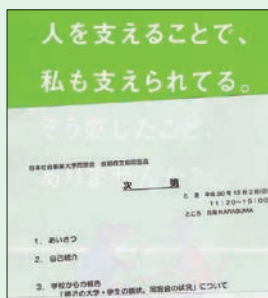
12月1日（土）、総会兼忘年会を開催しました。総会ではもともと7月に予定していたのですが、台風のため延期になっていました。同窓会本部から竹田副会長にお越しいただき、役員中心に9名が参加。総会では、新会員が増えないため会の予算・繰越金が減少にあること報告。このままでは年1回の会報発行すら危うい状況です。来たら清瀬世代！その後の交流会では幹事の筆者が泥酔、どうやって閉会したか覚えていません。

34期生 菊池浩史

京都府支部

女性陣の元気・活躍ぶりが目立つ!! 次期支部長に塚本智(学部25期)さん

12月2日（日）京都市内で4年ぶりの開催。90歳を越した女性会員を筆頭に、公私の研究・福祉事業に携わる方、もう仕事は退いた方など12名の集いでした（京都では従来から会員数30名弱です）。自己紹介、大学・同窓会の現状説明の後、研修として二人の方に障害児福祉活動の現場報告を。全体を通して女性陣の元気さと活動活発ぶりが目立ちました。今回選出された次期塚本新支部長のもと、又の再会を約束して幕を閉じました。（活動報告より）



佐賀県支部

総会で支部活動の在り方を検討 県内公立・私立高校訪問の実施と 福祉関連団体との連携図る！

9月26日（水）大橋謙策前同窓会長を迎え支部総会を開催。最近では佐賀県への卒業生がほとんどいない中で今後の支部活動の在り方を検討しました。

現在は在校生が一人であり、母校に高校生を送り込むための活動として福祉系高校など県内公立・私立高校に入試要項等パンフレットを直接配付して社大の良さや特徴を伝えていくこと。また社協等の福祉関連団体との連携を深めていくことになり、今回県内15校への高校訪問と「佐賀県社協」及び「佐賀市社協」との意見交換を実施しました。

藤崎信一



事務局活動報告



10月6日 運営委員会

12月8日 運営委員会・関係者拡大会議

社大生の「職場訪問・体験」「セミナー参加」を応援する職場体験応援制度の活用と学内学会との協働について協議しました。

今年度始まった応援制度については、ゼミや授業でも積極的に活用してもらうため教職員に制度の周知を図っていくこと。また、学会とのコラボによる就活フェアについては、在校生にもっと参加してもらうため名称、テーマを工夫して再度トライすることで母校・社大の発展に寄与していきたいと思ひます。



JCSWネットワーク 職場体験等応援制度始まる!

■社大生の「職場訪問・体験」「セミナー参加」を応援します!

同窓会では、日本社会事業大学とのパートナーシップを推進するため、卒業生のネットワークを活かして在校生が同窓生の職場訪問や同窓会支部セミナーへの交通費等経費の一部を助成するための『五味基金JCSWネットワーク職場体験等応援制度』を実施します。(対象や助成金額等については、同窓会ホームページでお知らせしています)



中庭の花壇作りがスタートしました

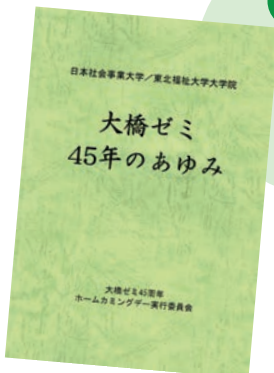


春の卒業式・入学式をお花でお祝ひしたい。11月のある休日、東久留米市シルバー人材センターの皆さんによる花壇作りが始まりました。

同センターの皆さんは、大学管理棟の清掃や大学への訪問者に湯茶をお出しする業務の他に、大学の中庭に花壇を作り四季折々の花を育てる作業を長年ボランティアで取り組まれています。



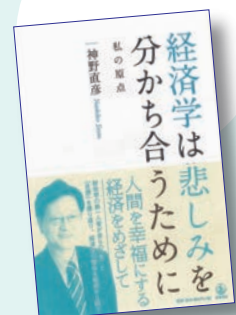
大橋ゼミ45周年ホームカミングデー 旧交を温めよりよい実践へ



大橋謙策ゼミ45周年を記念したホームカミングデーが、大橋先生とゼミ同窓生の出席により10月27日(土)に東京・市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷 私学会館」で開かれました。10時開会ののち午前中は大橋先生から記念講演をいただき、午後は5名の卒業生による実践報告をもとに大橋先生のコメントと出席者から質問・意見などがかわされました。夕方には記念レセプションが開かれ大橋先生を囲んで旧交を温めました。ちょうど社大祭開催の時期にあたり、レセプション後には25年振りに社大(祭)を訪問し、懐かしさに感動した同窓生も…!

熊谷紀良

神野直彦学長著書 プレゼント



神野学長の最新著書『経済学は悲しみを分かち合うために:私の原点』(岩波書店、2018年、B6版252ページ)をプレゼントします。今回は、抽選で10名様に。学長の直筆サイン付で。住所・氏名は次のあて先までご連絡ください。

〈郵便の方〉〒204-8555

清瀬市竹丘3-1-30

日本社会事業大学同窓会

〈FAXの方〉042-496-3051

〈E-mailの方〉kouyu@jcsu.ac.jp

同窓会費納入に ご協力を

会報「社大同窓会」を年に2回約8000人の同窓生・約1000人の在校生にお届けしていますが、会費納入者は約1500人とどまっています。母校創立70周年を契機に今後とも同窓会は、卒業生同士の活動だけでなく在校生とも一緒になって、社大教育と実践をつないでいきたいと考えていますので、一人でも多くの方の会費納入をお願いする次第です。

同窓会役員一同

一部リーグ優勝！・夢 みんなが応援してくれる 社大野球部夢見て

新関東大学準硬式野球連盟の理事をされていますが

卒業以降もOB戦や納会などのイベントに参加させて頂いたり、後輩の方々に職場にアルバイトに来て頂いたり、私にとって野球部は身近な存在でした。五十歳の節目を迎えたところで副会長を務める藤崎監督（七三年卒）に恩返しをしたいという思いもあり連盟のお手伝いをさせて頂くことにしました。

まだまだ理事としては見習い中ですが、職場以外の組織に属することは新鮮ですし、何より学生さん達からエネルギーをもらっています。春秋のリーグ期間は土日どちらか一日は練習をのぞきに社大グラウンドまたは試合会場へ応援に出かけています。



理事というよりは「追っかけ」ですね（笑）。

社大野球部は一九七〇年の新関東大学準硬式野球連盟（現在三部制・十五校加盟）設立に関わっており、現在も伊藤博胤さん（初代野球部OB・元社大大学生課長）が名誉会長を務められています。長く一部で上位争いを繰り返してきています。長い歴史をもつ社大で唯一の体育会部です。近年は三部と低迷していましたが昨年度二部に昇格、一部への期待を抱けるチームとなっています。箱根駅伝や六大学野球のように（笑）母校を応援できる良い機会です。で現役の学生さんにもOBの方々にも是非とも応援して頂きたいです。

卒業後さまざまなことにチャレンジされましたが

社大を卒業後は民間一般企業（企画調査・出版）へ就職しましたがプレッシャーに勝てず四年で退職、半年ほど鬱々として



関根 久美子
学部30期
(1990年卒)

いました。

そんな時に野球部の同級生より山谷（東京都の日雇い労働者の街）の福祉センターでの臨時職員募集を聞き、学生時代に寿町（横浜市の日雇い労働者の街）で実習をしていた経験もあったため、懐かしさや物珍しさもあり大きな覚悟もなく福祉業界へ戻りました。しかし、いざ始めてみると性に合ったのではありません。一般企業にいた時にはなかった行動力で非常勤（医療相談員）となり福祉センターで応急保護や入院同行、措置依頼（生活保護申請補助）などの業務を八年ほど勤めました。

非常勤という立場や通所施設での業務に限界を感じ、しっかりと組織に属してより長期的で直接的な支援を展開したいと考えたようになつていった時にやはり先の野球部の同級生（現法人代表新津理事）の誘いもあり民間法人へ転職、東京都より受託したホームレス自立支援センター（生活寮）の職員を十年務めました。三六五二四時間注意を払う必要のある施設勤務は厳しいものでしたが、新たな福祉事業の展開について関係機関と協議し、職員間で切磋琢磨しながら有効な支援方法を日々検討する充実した日々でした。

現在の就労支援の仕事やその想いについて

七年前からは主に生活保護の自立支援プログラム委託事

業の専門相談支援員（就労支援員など）として福祉事務所などの自治体で勤務しています。生活困窮者支援は児童・障害・高齢・性別や世帯、単身などの区別なく、すべての方々が対象となります。個別の面談・訪問・同行と合わせて関係機関の方々と連携して支援にあたります。最近では外国出身の方を支援することも増えました。生活困窮に陥った方々のマネージャー兼コーチになれるような支援を心がけています。

学生時代の思い出は

大学時代は家族と離れ鹿児島より上京して自分を再構築していくことに必死でした（笑）。決して優等生ではありませんでしたが、いくつ講義を受講しても授業料が同じということに感激して、とにかく単位を取得するという可笑しな学生でした。

四年生の時に原宿から清瀬へ大学が移転することになった時は複雑な気持ちでした。清瀬の住民の方が大学建設にあたり「大切な樹木を切らないでほしい」と運動を展開されていることや、永く野球部を応援してくれていた原宿商店街の方々と別れに動揺し



清瀬移転後、初めての卒業式で



現マネージャーさん達と一緒に（右から2人目が私。選手と結婚して子連れの卒業生も）

ました。想定外といえば在学中での社会福祉士制度の導入も衝撃でしたね（笑）。卒業式に野球部の後輩選手から胴上げしてもらえたことは一生の思い出です。

今後の抱負

野球部を通じて社大を盛り上げていくことが出来たら嬉しいですね。清瀬のグラウンドは新関東大学準硬式野球連盟二部の試合会場にもなっています。卒業後、グラウンドへ足を運んで感じるのはグラウンドの荒廃と設備の老朽化です。現役の学生さん達には安全になるべく快適に野球をしてほしいです。願わくは他大学の野球部の方が羨むような球場であってほしいです。また、現役学生や教職員、OB、近所の方々が応援や観戦に来てくれるような野球部・球場を夢見しています。

プロフィール

関根 久美子(せきね くみこ)

1967年 鹿児島県生まれ

1990年 日本社会事業大学児童福祉学科卒

現在

中高年事業団やまで企業組合 相談支援員
新関東大学準硬式野球部連盟 理事